

# あんどくりすの防災四季だより

第13回 放送日：2019.6.28（金）

パーソナリティー：あんどくりす

テーマ：水難事故



「命を守る」という大切なことに役立つのは、  
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどくりす」さんが、  
防災・減災の方法を楽しく導きます。

子どもの水難事故の半数が、夏休みに集中！

川の状況についての知識や、  
親はどのようにすればよいか？

そのようなお話です。





# 救助できない

川に行くときは、  
「ライフジャケットをぜったい着けてね！  
シートベルトと同じだよ。」  
というお話をしました。(第7回)

今週は、  
水難事故について、お話ししたいと思います。

子どもの水難事故の約6割は、川と湖だ。  
という風に言われています。

子どもだけで  
水辺に近づかないように。  
行かせないように。  
と思いますよね？

もちろん、  
子どもひとりで水辺に行くのは危険です。

もし溺れた時に、助けることができない！  
という事が、  
死亡事故につながりやすくなります。



# 大人がいても

ところが、  
川の水難事故の6割が、

大人と一緒にいるときに起こっています。

親と一緒にいても、  
対策を知らなければ

子どもの命を助けることができません。

水辺で起こった事故の例が、  
河川財団の  
「子どもの水辺サポートセンター」ホームページ  
に掲載されています。

[http://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf\\_kasen03/news052.pdf](http://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf_kasen03/news052.pdf)



# 親は川下に



河原でバーベキューなどを  
楽しんでいるときに、

親がそちらに気を取られていると  
子どもから目が離れやすくなります。

子どもと川遊びをする時に、  
私が実践している事があります。

遊ぶその場所は、

- ・川下が、必ず浅くなっている所を探します。
- ・親は必ず、川下に立ち見守ります。

子どもには、川上で遊んでもらいます。

絶対流れてきます。(´Д`)Ⓜ



# 見た目の流れ

川幅が広いところは、  
助けられません。

川に慣れていない人でも、  
白く泡が立っている瀬のところは  
流れが早いとご存知です。

川幅が広いところは、  
水の流れがゆるやかで  
あまり動きがないように見えます。

実は、あまり動いているように見えない、

川幅のあるところの方が、  
底の方(流心部)で、速く流れていたりします。

流れの幅の広いところは、水量も多く  
意外と事故が起こりやすいのです。

絶対に、泳いで渡ろうとしないでください。



# 事故が起こりやすい場所



事故が起こりやすい場所として  
意外と皆さんの盲点になっているのが、

人工の構造物が多いところです。

川で遊んでいると、  
自然のままの場所よりも、  
人工物があるところの方が  
安全だと思いがちです。

水難事故の16%が、人工物での事故。  
という風に言われています。



# 危険な人工物その1

釣りの岸壁も危険なのですが、消波ブロック(波消しブロック)、って分かりますか？

円錐型の脚が4本突き出た、いわゆるテトラポッド(※)や、立方体型のものなど、様々な形の大型ブロックがあります。



(※)  
「テトラポッド」は、  
株式会社不動テトラの登録商標名

ほとんど水の中に没していて波や水の流れを抑えているというもので、

大型の波消しブロックを組み合わせ、設置されています。





実は人工物の周りは、  
流れがとても複雑です。

底の石や砂がえぐられて、  
とても深くなっていたりもします。

テトラポッドの間に落ちた場合に  
どこに流れるか分かりません。

苔や海藻でヌルヌルだったり、  
貝が付いていて傷ついたりもします。

助けるのも大変という場所なので  
意外というか、とっても危険です。

(テトラポッド 危険 で検索してみてください！  
(㊦)ノ はしも)





# 危険な人工物その2



橋の袂(たもと)も危険です。

橋の袂や橋脚に、  
棚ができていたりしますね。

ちよつとつかまるのに良かったりするので、  
なんとなくその周辺で泳ぎがちなのですが、  
そこでの事故も多いのです。

川に飛び石状になって配置されている  
人工物があつたりします。

どちらも流れが複雑になるので  
やはり同じように事故が多いです。



# 最も危険な人工物

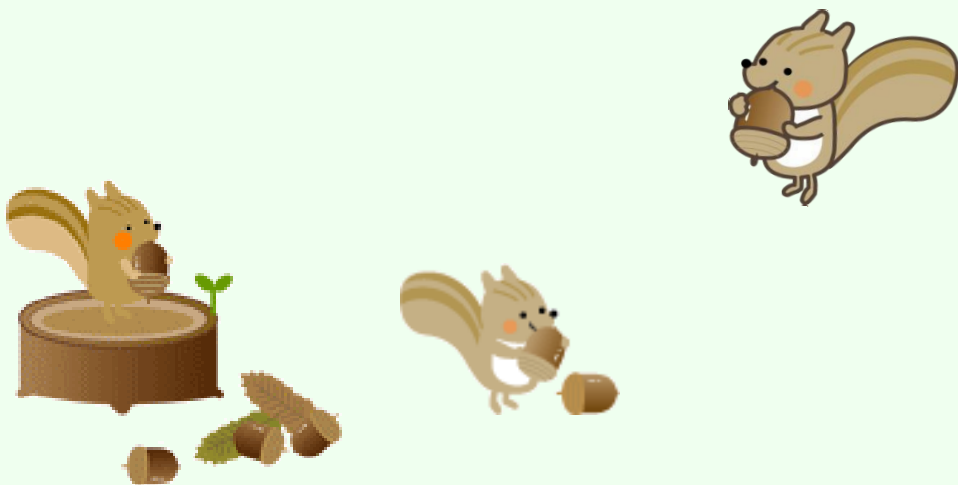
で、最も危険なのが、  
堰堤(えんてい)ですね。

中高生になると、  
行ってみたくなる場所のようです。

低い滝のような流れになっているので、

ここでちょっと遊んでみたい。  
この滝、高くないから、あがってみたい。

という気持ちになるんですね。





流れが落ちているところには、  
リサーキュレーション  
という縦方向の循環流が起こっていて、

ドラム式洗濯機のように  
ぐるぐる回っています。

その中に入ると、浮力があっても  
流れも強く、脱出できない可能性があります。

非常に危険な場所である  
ということを  
あらかじめ知っておいてください。

どこが危ないのかという事を  
しっかり知ったうえで

川遊びを楽しんでいただければと思います。



# 体験が安全のモト



そんな風なことを聞くと、  
いや、川で遊ぶの怖いと  
思うかもしれません。

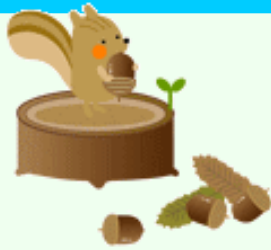
お子さんを連れて川へ行くときは、

ライフジャケットを着ける、  
必ず安全を確保してあげる。

などの対策を取って  
川遊びを体験した方が、かえって安全。

という事があると思ってください。





逆に全く遊んでいないお子さんの方が、  
川に行ったときに、  
恐ろしい行動をしたりする時があります。

川遊びに慣れてないお子さんを  
連れて行ったことがあります。

例えば、岩から飛び降りようっていう時に

慣れている人は、川をよく見て、  
岩などが出ている場所を避けて  
必ず遠くに飛びますよね？

慣れていないお子さんは、  
いきなり真下に飛び降りようとしたのです。

それは頭を打つなど、  
致命的な大けがになる可能性があります。

まったく体験が無い方が  
危険な行動をするかもしれません。



# お子さんの危険 あるある



靴が流されると、  
すぐ取りに行こうとするんです。  
お子さんが。

深いところに、わーっ！と行ってしまっ  
て流される。

というケースが多いのです。

実際に、私も救助したことがあります。

なので、  
「脱げにくい靴」というのが、  
非常に重要になります。





サンダルや  
穴のあるデザインのような物は、

脱げやすくなったり、  
小石が入ったりします。

ウォーターシューズは、

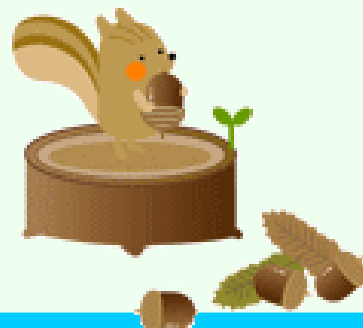
ウエットスーツ素材、  
メッシュタイプでも、

足全体を守れるような物。

足首まであって、脱げにくい物。

が、

使いやすいという風に思っておいてください。



# 滑らない工夫を

川の石や岩には、  
苔などがついてたりします。



滑って頭を打ったり、  
滑って流されるという事もあります。

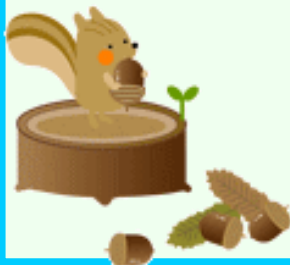
ここは釣り人のテクニックをひとつ!

フェルトを  
靴の底に接着剤で貼り付けます。

そうすると、滑らなくなります。

手芸用フェルトで試したことがあるのですが、  
これは薄くて、すぐダメになりました。

そこで、







靴の中敷きに、  
保温用のフェルト素材の物があります。

夏場は  
ネット通販等で探してみてください。

厚地なので、耐久性があります。

靴の裏のサイズに合わせて切り取り、  
接着剤で貼り付けます。

接着する材質に合った、  
水中でもOKの接着剤を  
選んでいただければと思います。



TEXT/はしも